楊太真遺傳

處女香

精製桐の箱入

一廻り 百二十文

そもゝ此ハ薬ハ奇桐を香薬の妙方にて男女に限らず顔の艶をよくして其生まれつきにて色黒きも次第に白くし肌目細やかの功能あれば色白しあくまでも數の業世間に多く白粉洗粉化粧水あるひは油薬などを製して皆あらく顔の艶になるおそれありても功能書に志るしてあれども其實付の半分も功能なし依てこれに相等しきを悩て以ても久しくあて試に上等の香料あかのみへるものならさるにあらざれど左様に隆なる薬にてはなれぬ只一度用ひても忽ちに功能ありて顔麗しき妙薬なり一廻り用ひれば只今よりの色白く然も桜のごとくなり二日目より用ひかうべく如何様に荒れたる肌目も細かにて絹のごとくになり志ばらくのうちにもふきでもの・そばかす・腫物の跡・あざの類おしも跡なく消りてうつくしくなるの結合也・剃跡へ誂と洗ひこの處女香をもつて化粧を付るときハ白粉を能するときハ色も白く只自然なる色の白くうつくしきハ称するなれバ顔の肌へに不及本家の方が用ひこの肌目に至るまで美くなる製法の多かり結ひのまゝ日々相まされ真の美人となりぬべし

為永春水精剤

髪の艶を出し髪癖をなほす 妙薬 初みどり

なのくせある髪を洗へば常にあぶらも水なるにもうつくしくなる とこのあぶら有 代二十六文

賣弘所

書物并繪入讀本所

江戸京橋弥左エ門町東側中程

文永堂 大嶋屋傳右衛門

御化粧 人美里

處女香